

古代の港まち

行田みなみ産業団地の造成に伴って発掘調査が行われた築道下遺跡と八ツ島遺跡は、古墳時代後期～中世にかけて元荒川左岸に営まれた県内屈指の大集落遺跡です。両遺跡は本来一つのムラであったと思われる、発掘調査では古墳時代後期～平安時代前半の竪穴住居跡823軒、古墳時代後期～中世の掘立柱建物跡239軒・井戸跡595基・溝493条、中世の墓地跡1カ所・土器焼成窯1基などの存在が確認されています。

このムラが最も栄えていた時期は、奈良時代～平安時代初期で、川の津(港)として栄えていたのではないかと推測されています。この時代には、二面に底のある5×3間の掘立柱建物、溝を持つ5×2間の掘立柱建物など大型の建物が元荒川と平行して多数建てられました。元荒川の流路変化で遺跡西側が失

われていることもあって、埠頭は発見されていませんが、ここで川から荷物が陸揚げされていたことがうかがえます。また、桁行10間以上の長大な掘立柱建物が、梁行を川に直行させて建てられており、津や駅家などの交通施設の主要建物と推測されています。港に通じる陸路の起点となる施設ではないかと思われます。

遺跡の南側には低地が湾入していて、ムラは低地を囲むように広がっています。この低地が船の停泊する入江ではないかと考えられています。この遺跡南側には中核となる四面に底のある3×2間の寺院的な掘立柱建物があり、その前に広場があって、眼下に低地が湾入しています。元荒川を遡上してきた船から最初に見えるランドマーク的な建物であったと推測されています。築道下遺跡からは、静岡県湖西市の湖西窯で作られた須恵器など他地域の土器が数多く出土していて、広範囲に渡る交易が行われていたことが分かります。また、円面硯など役人の存在をうかがわせる遺物なども出土しており、河川交通と陸上交通の要所であったと推測されます。

築道下遺跡は、古代の行田において荒川の玄関口であったのかも知れません。(文化財保護課 中島洋一)



築道下遺跡全景(南側より)

こせに ちゃんが 行く! with フラベス 福祉施設編

それいゆ (運営:NPO法人CILひこうせん)

今月紹介する福祉施設「それいゆ」は、尖がった青色の屋根が目印。この建物は、ものづくり大学の学生がデザインしたんだって。施設内は開放的な空間が広がっていて、食事やアート作品を楽しむために多くのお客様でにぎわっているんだ。

平成21年4月にオープンしたこの施設では、障がい者が訓練の一環として料理を配膳したり、クラフト品の販売を行ったりしているよ。中でも古代米カレーは大人気。食べやすいように、具材をミンチ状にしているところがポイントなんだ。しかも、行田在来青大豆も入っているよ。ぜひ、一度お試しあれ(営業は月～金曜日の午前11時～午後3時)。

なお、8月27日から9月1日まで「ampかわいいサミット」が開催されます(詳細は36ページ)。夏休み最後を飾る障がい者アートやアート作品の世界を、楽しんでみてはいかがですか。

【住所】南河原2676-1 【電話番号】557-1706



このコーナーで紹介する施設を募集していますので、希望される場合は広報広聴課までご連絡ください。

今月の表紙

成田軍フルメンバーが、久々に忍城址に集結。今やおなじみとなった「いいだんべ!」の威勢のいい掛け声と共に、思い思いにポーズをとっていました。新たなメンバーが加わり、ますますパワーアップした忍城おもてなし甲冑隊。これからも大勢の観光客を魅了し、行田市を存分に盛り上げてくれることでしょう。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています